

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 2月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	4270103437
法人名	有限会社 なぎさ
事業所名	グループホーム なぎさ
所在地	長崎県長崎市かき道6丁目3番5号 (電話) 095-813-3921
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成21年 2月19日

【情報提供票より】 (平成21年1月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	19 人
利用定員数計	18 人
常勤6人, 非常勤13人, 常勤換算7.7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	2階建

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	実費に応じ請求	
敷金	有() 円		○無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円	有りの場合償却の有無	有 / 無○	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	0 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (12月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	70 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大久保病院・千綿病院・清原龍内科・泉田歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームの運営理念は、「癒し」であり、理念の実践のために音楽療法や気功教室などを取り入れている。職員の理念に対する意識は高く、利用者の認知症の軽減や改善のために日々のケアが行われている。利用者には尊厳を持った接し方、言葉づかいのケアが行われており、利用者に笑顔が見られ「癒し」のケアが行われていることが伺えた。また利用者本位のケアが行われており、食事については利用者の好みに合わせて内容を少し変えたり、外出支援についても外食や散歩など積極的に行われている。窓からは海が望まれ、2階には広いウッドテラスがあり、天気の良い日などは日光浴や食事に利用されている。そこから直接外へも出られるようになっており避難経路としても有用である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題の重度化や終末期のケアについて話し合いがなされ、今後長崎市のグループホーム協議会にそれに対応した研修を開いてもらえるように希望を出し、積極的に参加する予定である。提携病院の医師との話し合いもされ、できるところまでケアを行いたいとのことだが、具体的にホームがどこまでケアに取り組むか方針は決定していない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で行われ、気づきやケアの改善に取り組んでいる。出された意見は管理者がまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	外部評価の結果報告と日々のケアの改善に向けた具体的な取り組みについて討議されたほか、避難訓練の報告を行った際に避難場所、避難経路の掲示について意見が出たので、避難場所の変更や、避難経路の掲示を見やすいものにするなど改善を行っている。また利用者の様子をより詳しく伝えたほうがよいとの意見が出たので、個別にメッセージを送るなどの取り組みを行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時には、必ず家族と話し合う機会を持ち、意見、要望をくみ取るようにしている。苦情受付、相談先は重要事項説明書に明記されており、説明もされている。運営推進会議に苦情解決の第三者委員や家族に参加してもらう、家族参加の行事の後に団欒や意見交換をおこなえる食事会を設けるなど、話し合いの場を作り、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小学校の秋祭りや地域のペーロン大会への地域行事への参加を行っている。また夏祭りなどのホームの行事には地域の方々を招待している。中学生の職場体験受入の後、手紙のやりとりがあったり、散歩のときに近所の方が畑仕事を行っている時にはお互いに声を掛け合ったり、近くの有料道路の料金所の職員に声かけを行うなど交流を行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域社会にも理念を理解してもらえるよう地域との交流を行っており、「癒し」の理念をもって地域に根差したケアを行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と経営方針が記載されてあるカードを名札の裏に入れ、月2回の職員会議で唱和するなど常に意識しながらケアを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小中学校の職場訪問やホームの夏祭りに地域の方を招待するなど交流を行っている。また地域のペーロン大会にも応援団として参加している。利用者の散歩時に近所の方々とあいさつや世間話などをして交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員参加の会議の場で行われ、意見を出し合い、ケアについての改善点の確認が行われている。出された意見は管理者がまとめている。また評価を受けての改善点などについても、全職員で話し合いが行われ、改善にむけた具体的な取り組みについて話し合いが行われている。		

グループホーム なぎさ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一回開催され、メンバーは、市の担当職員、包括支援センター職員、町内会長、民生委員、法人代表、ホームの職員、家族代表等で構成されている。外部評価の結果報告や、日々のケアについての質疑応答などさまざまな議題について話し合いがなされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市の担当職員が出席した際は、家族、事業所からの行政への要望を伝えている。また、運営推進会議の討議内容についての結果報告を送っている。市の担当課の職員がホームを視察に来た際には利用者のケアについて意見交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には利用者の様子を報告し、毎月「なぎさだより」というたよりで、日々の暮らしぶりの様子を写真入りで伝えている。また、個別に担当職員がメッセージカードを作成し、より細かい報告が行われている。金銭についての報告は、法人が費用を立替払しており、毎月の利用料請求時に立替費用の領収書の原本を送付して報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはいつでも意見を言ってもらえるような雰囲気づくりを行っている。運営推進会議に苦情解決の第三者委員が参加し、意見、要望をくみ出す取り組みをおこなっている。イベント後の食事会などで、家族同士の意見交換の場はあるが、家族会などではなく、家族のみで話し合える機会は少ない。	○	家族が意見等を気軽には言いにくいとも考えられるので、職員、関係者は席を外し、家族のみで話し合える場などを作り、意見等をくみ出す工夫を行うことを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、極力行わないようにしている。新職員がケアにあたる場合は、いきなり担当としてケアにあたるのではなく、前からいる職員、利用者、新職員と話し合いを行うなどコミュニケーションを取り、徐々に慣れてもらうように配慮している。管理者は職員の相談に気軽に応じることで、離職をしないように努力している。		

グループホーム なぎさ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画があり、管理者は職員の段階に応じて研修受講の計画を立てている。外部の研修や市グループホーム協議会の地区毎の研修に参加し、研修の報告は会議の場でなされ、共有されている。職員が希望する研修受講や、一度受けた研修内容が良かったので職員同士で情報を共有しあい研修参加を募るなど、研修受講を事業所でサポートしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、グループホーム同士の職員を対象としたテーマを決めての勉強会などを行い、質の向上をめざし取り組んでいる。また他のグループホームとお花見を行ったり、お茶会を行ったりして、お互いの職員、利用者の交流が行われている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを利用する前には職員が面接に行き、本人や家族、担当の医師、社会福祉士等と話し、情報を得るなどしている。利用開始前に利用者、家族に見学してもらい納得のうえ入居となる。基本情報として、暮らしの情報シートを作成し、昔してきたこと、馴染んできたことを把握し、馴染めるように工夫している。最近では併設のデイサービス、有料老人ホームの利用から始まり徐々に慣れてもらってからサービス開始する場合もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意分野を把握し、役割を持たせ、メリハリのある生活を支援している。以前の仕事の話をしてもらったり、洗濯物たたみや花植え、野菜の作り方を教えてもらったり、一緒にテレビを見ながら職員も共に感動したりするなどして共に支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや家族からの情報を参考にしたり、利用者の話をよく聞くことや、表情、目の持って行き方などで希望や意思の把握に努めている。把握が困難な方に対しては、なにが本人本位なのかを検討し、意向を職員間で共有しあい、ブレがないようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族が面会に来た際などにモニタリングを行い、本人や家族の要望を聴きだしている。それをもとに計画作成会議を開き、全職員の意見のもと最終的にはケアマネージャーがとりまとめ、作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回見直しが行われている。見直しの介護計画作成会議には夜勤以外の職員は全員参加で行われている。状態に変化が生じた場合は随時の見直しが行われ、見直された介護計画は新しく作成されている。新しい介護計画はケアプラン確認表にて全職員に確認してもらい、確認が終わったらチェックしてもらうようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、買い物や病院への送迎など柔軟に行っているほか、認知症対応型のデイサービスを行っており、居宅介護支援事業所からの紹介でサービス利用している方もいる。		

グループホーム なぎさ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望している医療機関を優先している。また提携医療機関とは24時間対応できる「業務連携契約書」を交わし、適切な医療を受けられるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアについてはできる限りまでケアを行いたいとの意向だが、設備面やスタッフの心構えなどの面からホームとしての具体的なケアの方針が決定していない。	○	日常の健康管理や急変時に対応できる提携医療機関はあるが、利用者や家族がより安心してサービスを利用できるように、話し合いを行い方針の統一がなされることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報に関する書類は所定の場所で管理され、外部の人には見られないようにしている。また職員雇用の際には、守秘義務の誓約書を取っている。言葉かけについてはなれ合いにならないように尊厳を持って行われることを会議で確認している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に声掛けを行い希望を聞き出している。レクリエーションを強制させることはなく、テレビの時間もペースに合わせている。希望により散歩や近くの図書館へ外出の支援を行っている。		

グループホーム なぎさ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々のケアを行うなかで利用者の好き嫌いの把握をしている。職員は同じものを食べ、利用者の食事のサポートを行っている。きざみ食やミキサー食の方にもきちんと皿に盛りつけ、食事が楽しみになるような工夫をしている。食事の準備、あとかたづけ等は利用者の出来る範囲で手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の順番等は希望に合わせている。ジェットバスや入浴剤などで入浴を楽しむことができる支援を行っている。利用者により入浴の際の介助を同性の職員が行っているなど、羞恥心にも配慮されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族からの情報提供や利用開始の際の情報シートなどで生活歴を把握している。また声掛けを行い、毎日の生活のなかで、洗濯物たたみやお茶の葉詰め等利用者が得意としていること、楽しみとしていることを行ってもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節の行事での外出支援や、暖かい時期などは散歩などを行っている。年に3回ほど外食支援を行い、メニューをその場で選んでもらうなどしている。歩行困難な方には車いすを使って支援され、芋掘りの際も車いすで行けるように畑の所有者に配慮してもらった。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけておらず、常に利用者を見渡せる場所にいるよう意識し、見守りを行っている。また散歩の際には地域の方に声掛けを行うことにより顔覚えてもらい、地域の協力を得られるようにしている。		

グループホーム なぎさ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事故、災害マニュアルを整備している。火災訓練は年2回以上行われ、利用者、職員が参加する夜間を想定した訓練が行われたり、消防署立ち会いのもと指導を受けながら行われている。地域の消防団には運営推進会議の際に災害時の協力をお願いしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は個別にチェック表に記入され、状態の変化を把握できるようにしている。栄養バランスについては管理栄養士に確認をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂などの共有空間には季節の花々や季節の装飾、手作りのカレンダーで季節感を取り入れている。リビングは広々としており、床暖房が整備され、そこで音楽療法やレクレーションなどが行われている。また2階のウッドテラスでは植えている花々から季節を感じながら食事をとることができるなど利用者の楽しみの一つになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や仏壇、写真や装飾などこれまでの生活に使われていた馴染みの物を持ち込んでもらい、配置も利用者の希望にあわせ居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※  は、重点項目。